

創造を 愉しむ

学びの教科書

大磯町商工会女性部

大磯を青ミカンのまちに
「マチ、カオル。Oiso」始動。



アロマオイルの開発へ

始まりは平成28年(2016年)。アロマが趣味という女性部部长、高橋みどりさんが部員を訪ね、ミカンを使った大磯の町おこしを働きかけたのがきっかけでした。

たかさんの方々からアドバイスをいただきながら、ミカンの栽培過程で破棄されている※摘果ミカンの話を聞き、そのミカンを使用し商品化できないかと模索。「難しいのでは」という声もある中、「協力するから頑張る」と背中を押してもらったのです。

その後、町、商工会、中南信用金庫、横浜銀行と連携し「マチ、カオル。Oiso」というプロジェクトを立ち上げ、本格的にアロマオイルの開発を始めることとなりました。商品開発にあたっては、香り、ラベルデザインなど若い人たちの意見を積極的に参考にするため、相模女子大学の学生さんたちに協力をお願いし進められました。

平成30年(2018年)2月にはアロマオイル試作品ができあがり、ネーミングやラベルデザインの最終決定を経て、夏に採取された摘果ミカンを使用した、アロマオイル「大磯 frais - Tekka -」が完成しました。

ネーミングとラベルデザイン

アロマオイルのネーミングでは、フランス語で「みずみずしい」「すがすがしい」などの

意味を持ち、軽い語感の「frais(フレイ)」という言葉を取り入れました。

ラベルデザインについては、相模女子大学・相模女子大学短期大学の学生さんのアイデアをもとに作成。大磯の海をイメージさせる青い小瓶に、輪切りしたミカンのオレンジ色が映え、とても素敵なデザインに仕上がっています。ネーミングの由来ともなった「frais - Tekka (摘果ミカン)」のラベルには、時間をかけて町を研究、大磯の海と山に思いを馳せながら作成に携わった学生さんたちの想いが込められています。

主張発表で関東2位 町と「ミカンアロマ」をPR

令和元年(2019年)7月に新潟県で行われた「関東ブロック商工会女性部交流研修会」の主張発表大会で、大磯町の主張が関東2位に選ばれました。

当日は、約1,000人の女性部員が見守る中、それぞれの活動についてのスピーチを行い、その中で県大会を突破し大磯町代表として登壇した高橋さんは、「ミカンアロマ」について発表。熱意を込めたスピーチで会場を沸かせました。結果は惜しくも2位でしたが、十分に満足。感謝の気持ちでいっぱいになったそうです。

第二弾 柔軟剤

新たに開発に取り組んだのは、洗濯時に使用する柔軟剤。試作品を部員たちで実際に使用し、香りの強さなどの話し合いを重ねました。試作品の調整は4回程行い、柔軟剤のイメージや部員たちの思いを伝えるために高橋さんがメーカーまで出向いたことも。「市販の柔軟剤には香りの強いものが多いが苦手な人もいます」と天然素材のほのかな香り

に徹底的にこだわったのだそうです。

高橋さんは「今はアロマも柔軟剤も摘果ミカンの皮のみを使って果実は廃棄しているが、いずれは果実を使った商品を開発して、摘果ミカンの完全な有効利用につなげたい」と目標を掲げました。

今後は、さらなる商品化に向け、大磯町の「名産品」として町に訪れた多くの方々に愛され、また女性部の開発商品が大磯ブランドとして確立され、地域の活性化へとつながるものになるよう、関係者の連携のもと、取り組まれていくそうです。

※摘果ミカンとは：ミカン栽培をするうえで、良い実がなるように夏場に間引く「摘果」。間引かれた「摘果ミカン」は、商品とならずそのまま廃棄されてしまいます。

商工会女性部とは

商工業に携わる女性として、経営に関するノウハウを学ぶとともに、女性の立場から各商工会地域の活性化に貢献し、様々なイベントへの協力をはじめ幅広い社会活動を行っています。



前列中央が部長の高橋みどりさん



どこで
買えるん
だべえ?

アロマオイル 大磯 frais-Tekka-

1本 5ml 4,400円(税込)
大磯町摘果ミカン果皮油100%
大磯産青ミカンの柑橘精油。
「爽やか」で「すっきり」とした「青ミカンの香り」です。
【販売場所】ハーブのじかん・大磯町観光協会

アロマ柔軟剤

1包 30ml 165円(税込) / 8包箱入り 1,200円(税込)
大磯町で収穫された摘果「青ミカン」を柔軟剤の香りに活用しました。豊かな自然環境で育まれた青ミカンは、爽やかな香りでリラックス効果抜群。普段のお洗濯物から大磯町の豊かな自然の香りを感じてください。
【販売場所】ハーブのじかん・大磯町観光協会・やまご電器・大磯珈琲庵・よろずや・山本石材店・maru庄屋 (2020年10月現在)



学びの教科書
創造を
愉しむ

文化センターとしての息吹キを
連句でつながる人とのふれあい
新たな発信へつながりたい



鳴立庵の由来と歴史

※「ころなき 身にもあはれは 知られけり 鳴立沢の 秋の夕暮」(新古今和歌集)

※現代では「私のような」風流を解する心まで捨てたはずの出家の身であっても、しみじみとした趣は自然と感じられるものだなあ。鳴が飛び立つ夕暮れよ。「などと解釈。(Weblio辞書による)」

京都の落柿舎、滋賀の無名庵と並び、日本三大俳諧道場の一つである鳴立庵。その命名は、平安時代から鎌倉時代の僧、西行法師が大磯あたりの海岸を吟遊して詠んだ歌にあるとされています。

なかでも、「鳴立沢」を、江戸時代の俳人、大淀三千風が現在の鳴立庵内に流れる川だろーとして特定し、そこに

庵を建てたことが名前の由来だと言われています。

また、寛文4年(1664年)、小田原の崇雪が西行のこの歌にちなみ、景色が良く昔の沢らしい面影を残すこの場所に鳴立沢の標石を建てました。さらに石仏の五智如来像(釈迦・阿彌陀・大日・阿しゅく・宝生の五仏)をこの地に運び草庵を結んだのが始まりとされています。

そのうち、昭和18年(1943年)に入庵した第十八世庵主 鈴木芳如(女性)は、積極的に鳴立庵の歴史を振り返り、戦中戦後期の鳴立庵を支えました。俳諧道場東往吟社の月例会や西行祭など発案し、先人たちの思いを確立。現在の鳴立庵を創り上げました。その後、山路閑古、村山古郷、草間時彦、鍵和田柚子に続き、現在第二十三世庵主の本井英に受け継がれています。



300年以上の歴史を誇る鳴立庵と原昔人から正岡子規に贈られた蛙鳴蟬噪の蛙オブジェ
Shigitatsu-an that was built more than 300 years ago and a statue of a frog presented to poet Masaoka Shiki, by the landlord of the hermitage.



西行法師の銅像と第二十三世庵主の本井英氏
Bronze statue of Saigyō Houshi, a legendary Buddhist monk/poet and Mr. Motoi Ei, the 23rd landlord.

西行法師と曾我物語「虎御前」

お堂の中には仇討ち物語で有名な「曾我物語」の主人公である曾我十郎の恋人、虎女の木像が安置されています。その表情からは一途な十郎への鎮魂の思いがひしひしと伝わってきます。

大磯の遊女であった虎女は十郎と恋に落ちましたが、十郎が父のあだ討ちの時に命を落としたことを悲しみ、出家し、生涯にわたり曾我兄弟の菩提を弔いました。あだ討ち後、剃髪をした虎女が善光寺にその話を伝えたとされ、「曾我物語」を創り上げたのは虎女の力が大きいとされています。



虎女19歳の姿 有髪僧体の像



信楽焼で造られ、投入口の
上には仲睡ましい2羽のフクロウがあしらわれている

日頃の感謝の気持ちを

想いを伝えてみませんか!
鳴立庵に恋文ポストが誕生
新たな恋愛パワースポットへ

愛する人を一途に想い続けた虎女にあやかり、縁結びのスポットにできればと、平成17年(2005年)から設置されています。平成31年(2019年)1月には陶芸体験とコラボした婚活イベントを成功させるなど人気をよんでいます。投函されたハガキや封筒は同庵の職員が郵便局に運び、鳴立庵の風景印が押されて宛先に届いていきます。

※ポストには通常のハガキや封筒も投函可能ですが、郵便料金分の切手貼付が必要となりますのでご注意ください。

子どもたちも集える環境づくりへ

鳴立庵だよりでは、現在の活動や俳句などの投函の掲載をしてきましたが、年1回の発行を年4回とし、えんいぐんのキャラクターと一緒に話題も広く募り、今後はもつと皆さんに※誹諧(連句)を親しんでいただくために、連句に關しても掲載をしていきます。

イベントに関しては、3月最終日曜日、円位堂前にて行う「西行祭」のほか、5回目を迎えた夏の風物詩「風鈴祭」など行っています。風鈴祭では、およそ80もの小田原風鈴が飾られ、涼しげな音で来場者たちを迎え、またそれらは、町の景観へと広がり、訪れた人々の心を和やかにしてくれました。今後は、願い事を書いた短冊を飾つたり、風鈴づくり体験など、子どもたちを含め多世代の人々が楽しめるようなイベントにしていきたいと新たな挑戦に向けて意気込みを見せています。

そのほか、連句初心者教室をはじめ、座禅、写経、生け花教室、伝筆教室などの教室や展示イベントを開催しています。特に毎月第一日曜日の午前中に行っている連句初心者教室では、文化を継承し、人とのふれあいをつなげ、言葉を通して楽しみのある会として参加を広く呼びかけています。

庵主である本井氏は「今後は大磯町の文化センターとなり、連句で文化を広げ、たくさんの方々にも曾我物語を知ってもらいたい。そして行く先は子どもたちとふれあえる場所へ、鳴立庵をオンラインで発信できるように環境も整えていきたい。」と語られました。

※連句とは… 五七五の句の後に他の人が七七の句を、さらに他の人が五七五…と交互に付けていき、現在では、三六句まで(昔は百句)を詠みひとつの作品を共同制作する。正岡子規や松尾芭蕉などが得意とされていた。



風鈴祭 Furin-matsuri, the windbell festival



西行祭で西行の銅像に桜をたむける
Cherry blossoms offered to the statue of Saigyō at Saigyō-matsuri



庵内に設置されている投句箱
Toku-bako, a post for submitting a haiku

うつわを介して人と人が出会い、
そこから広がるご縁で
また新たなうつわへと誘われていく

作家さんたちにも出会い
笑顔満点の気まぐれな旅

学びの教科書
創造を
愉しむ

いいモノを探してみる
いいモノにふれあう



町を歩き、
うつわと出会い
「大磯うつわの日」

江戸時代は東海道の宿場町として栄えていた大磯町。明治以降は伊藤博文、吉田茂などの首相の邸宅や要人の別荘が多く建てられました。

穏やかな雰囲気の小さな町「大磯」には、この土地を愛し、芸術や文化を愛し、自分たちなりの審美眼を持って暮らす人たちがいます。

「大磯うつわの日」は、10月下旬頃に町内各地のお店や施設を会場として、地元の作家が中心となりうつわを展示販売するイベントとなっております。

陶芸や木工、ガラスなど様々なジャンルのうつわの展示販売や、ワークショップ、お茶席、予約制の食事会なども行われ、笑顔溢れるイベントとして連日、賑わいをもたらしています。

Walk around the town and find your favorite dishes
"Oiso Pottery and Craft Day"

Oiso prospered as a post-town on the Tokaido route during the Edo era. From the Meiji era onward, many residences and villas of prime ministers and leading figures such as Ito Hirobumi and Yoshida Shigeru were built.

The people in Oiso appreciate the cozy atmosphere of their small town. They don't only love Oiso's land, but also its cultural aspects. "Oiso Pottery and Craft Day" is held in late October when shops and facilities around town sell vessels mainly produced by local artists.

This event attracts many people every day as a variety of beautiful ceramics, woodworks, and glasses are exhibited and sold. There are also many workshops, tea-ceremonies and parties (reservation required) held.

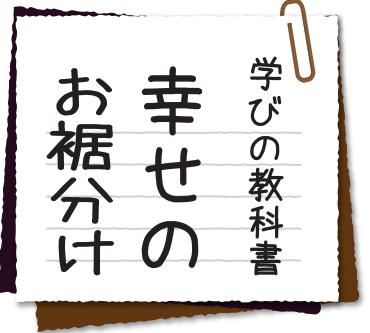
骨董の中に手に掛けたやさしさ
人の輪の温もりを感じる

大磯うつわの日

わくわく
おあいそ



コンテナ一つで参加可能。町ゆく人の心を豊かにする花々
Beautiful flowers brighten people's days and warm their hearts. Have only a planter? You can be a host!



オープンガーデンは、個人の庭がほとんどです。マナーを守って、楽しい庭めぐりの旅を堪能しましょう。
The open-garden event is held with the courtesy of private gardens. Please enjoy the tour of beautiful gardens while minding good manners.

春の訪れを感じたら
たくさんマチを歩き、たくなる

平成18年（2006年）にスタートした「大磯オープンガーデン」は、毎年4月から5月にかけて、「自宅の庭を無料」で公開。訪れる人を草花たちもてなすイベントとなっています。

歴史は英国から始まり、普及に伴い人々のコミュニケーションも高まり、自然や花を愛する人も増加。ガーデンの作り方や家の見せ方も大きく変わってきました。

毎年イベントを開催するにあたり、ホテルの食事付きプランなど身も心も温まるツアーも企画。そのほか、大磯アフタヌーンティーとしてスイーツともコラボ。訪れた人々たちの幸せへの道案内をしてくれます。

平成31年（令和元年）（2019年）になると、132か所のお庭やお店などが参加。毎年華やいだ春を大磯に運んでくれるイベントとして、ますます夢膨らむ企画と期待されています。

花と癒やしとスイーツと...
ほっこり流れる時間も愉しめる

くつろぎとおしさを味わえる大磯アフタヌーンティー
"Oiso Afternoon Tea" event, in which cafes in town offer special menus.



オープン
ガーデン



数々の企画も!!

- 2015年：プリンスホテルの食事付オープンガーデンツアー 定員/各40~80名((公社)大磯町観光協会)
お庭めぐりオープンガーデンツアー 定員/各120名(NPO法人大磯ガイド協会)
- 2018年：石神台・国府のお庭を巡るツアー 定員/各15名(おいそオープンガーデンホーム運営委員会)
- 2019年：個人で参加できる数人のツアーの開催(NPO法人大磯ガイド協会)
大磯迎賓館の食事付オープンガーデンツアー 定員/各40名((公社)大磯町観光協会)
ほか城山マルシェ(地場産品などの販売)など

プリンスホテルの
ガーデンツアーは
毎年実施している
人気のイベント!!



大磯ブランド

大磯でしか手に入らない逸品がずらり

米と米麴だけを使った「飲む点滴」美容と健康へ



大磯で収穫した米と
みかん果汁をブレンドした甘酒

Amazake, a sweet drink made from fermented rice, blended with tangerine juice, both harvested in Oiso
Tangerine amazake drink

※売上金の一部は大磯町旧吉田茂邸整備活性化等基金へ寄付されます。



吉田茂がこよなく愛飲した
土佐の高知の「司牡丹」純米酒!

あなたが大きな決断を
迫られた時、この日本酒を
思い出してください!
「決断の聖地」

Japanese Sake beloved by Yoshida Shigeru, former Prime Minister of Japan
Junmai-shu sake "Ketsudan-no-Seichi" (meaning a holy land of decision-making)
brewed by Tsukasa Botan a Kochi Prefecture-based brewery. Remember this
sake when you are facing an important decision!

落花生

生活習慣病の
予防におすすめ



Peanuts



落花生発祥地で唯一の専門店。
食べ始めると止まらなくなる
絶妙な塩加減が人気
落花生専門店 豆よし
国府本郷924-14
☎0463-71-2023



大磯の大玉柿

一つひとつ丁寧に
摘蕾と授粉を
行った自慢の逸品



名刺サイズ
より大きい
手のひらサイズ

Odama-kaki, ビタミン豊富な果実
larger sized persimmons

辛味や刺激臭が少なく
瑞々しくて甘みのある
ホタマネギ



湘南レッド

Shonan Red onions

湘南の輝き



Locally produced tangerines,
Shonan-no-Kagayaki (Sparkles of Shonan)

他にもオススメ
銘酒などもいっぱい!



大磯をまるごとお持ち帰り

食物繊維が豊富な低カロリーのマコモタケは、「9月末から11月上旬」が収穫時期。肥大した茎を食べるイネ科植物の中国野菜です。ほんのり甘味があり、シャキシャキとした食感を楽しめ、油との相性が良く特に天ぷらなどがおすすめです。その他にも和洋中全ての食材としてアレンジ豊富な万能野菜です。

マコモタケ



Makomotake mushrooms

古くから愛される老舗のオススメ



創業大正12年
上品な甘さを追及し素材にこだわった逸品
菓匠 友月堂
高麗3-3-39 ☎0463-31-1897



創業明治11年
日本中ここにしかないと称された逸品
大磯 井上かまぼこ店
大磯1306 ☎0463-61-0131
JR大磯駅より徒歩8分



創業明治24年
島崎藤村や吉田茂にも愛された和菓子屋
大磯 新杵
大磯1107 ☎0463-61-0461
JR大磯駅より徒歩6分

